

～自然豊かで親しまれる豊川を目指して～

豊川自然再生事業



国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所

6 豊川自然再生事業の概要

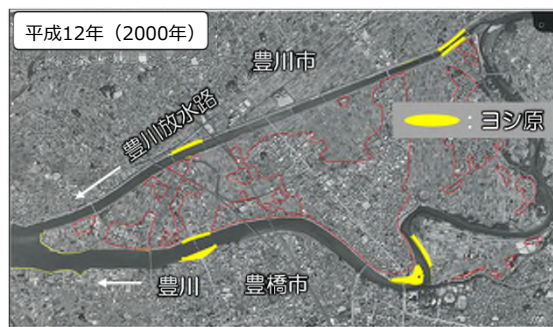
- 豊川下流域は、かつてヨシ原や干潟が広がり、生物の良好な生息・生育場となっていました。
- 河口域の埋め立て、放水路建設、河道掘削などの河道整備により、生物の棲める環境が減少しました。このため、豊川下流域においてヨシ原や干潟の再生を図り、良好な河川環境を創出する取組を進めています。



河口干潟 -昔と今-



ヨシ原 -昔と今-

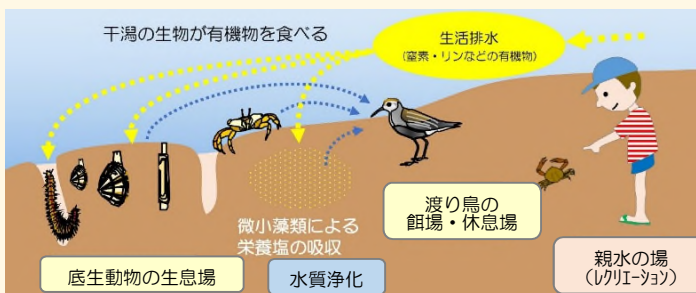


6 干潟の再生イメージ

- 砂を投入して干潟を造成します。
- 環境への配慮として、造成に用いる砂は、豊川の河岸材料を活用します。

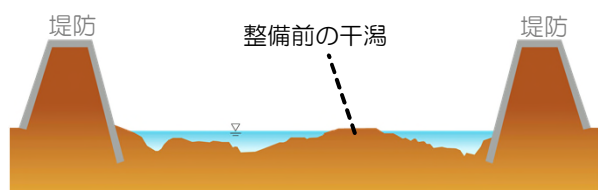
干潟の機能

- 干潟を再生することで、渡り鳥の採餌・休息場、底生動物の生息場になります。
- 水中や干潟の栄養を食べて育った底生動物は、鳥や魚等に食べられる（取り去られる）ことで、水質浄化にもつながります。

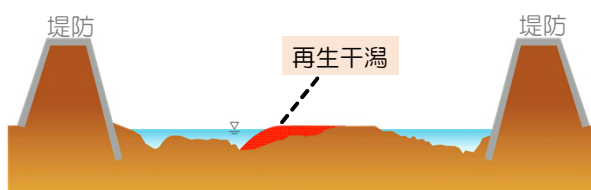


生物の生息場の改善
 水質の改善
 親水環境の改善

施工前



施工後



河口付近の多様な生物の生息環境となる干潟が減少しました。

干潟面積が拡大し、渡り鳥やアサリ等の貝類等、多様な生物が生息しやすい環境となります。

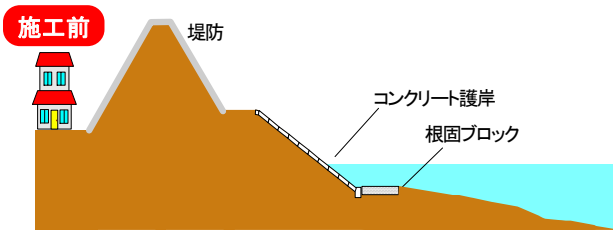
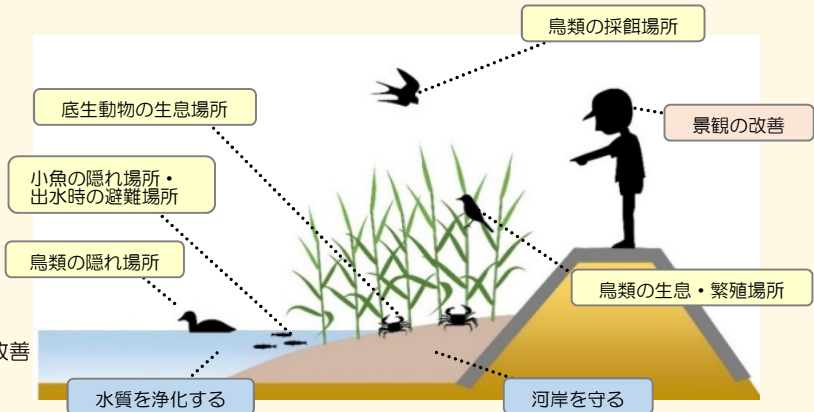
6 ヨシ原の再生イメージ

- ヨシ原の生育地を造成し、ヨシ根を移植します。
- 環境への配慮として、生育基盤造成の土砂やヨシ根は、豊川で採取したものを uses。

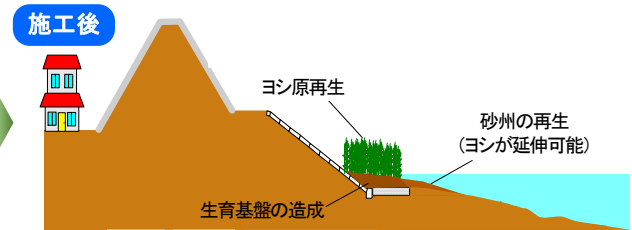
ヨシ原の機能

- ヨシ原を再生することで、底生動物の生息場所、鳥類の採餌・生息・繁殖場所、小魚の隠れ場所・出水時の避難場所になります。
- ヨシ原があることで、親しみやすい景観になるだけでなく、河岸を守ることに繋がります。

- 生物の生息場の改善
- 治水・水質の改善
- 景観の改善



水際に広がっていたヨシ原が減少し、多様な河川環境が減少しました。



水際のヨシ原が再生し、オオヨシキリ等の多様な生物が生息しやすい環境になります。

6 干潟・ヨシ原再生の経過



干潟再生

施工直後



9年経過



ヨシ原再生

施工直後



11年経過

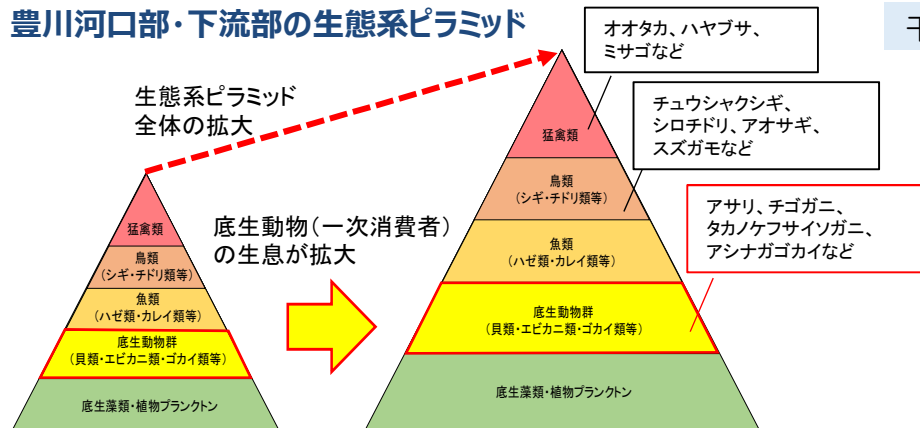


⑥干潟・ヨシ原再生の効果

①干潟・ヨシ原を利用する生物の増加

- ・豊川河口部・下流域では、様々な生物が確認されていることから、干潟やヨシ原の再生によって、多様な生態系の拡大が図られ、自然豊かな環境が再生されます。

豊川河口部・下流部の生態系ピラミッド



底生動物が増えることで、生態系全体が豊かになっていきます。

干潟を利用する生物の一例



チュウシャクシギ



タカノケフサイソガニ

ヨシ原を利用する生物の一例



オオヨシキリ



フトヘナタリ



アシハラガニ

オオヨシキリ(大葦切)ってどんな鳥…?



オオヨシキリの巣

- ・スズメ目ヨシキリ科の夏鳥(夏にだけ見られる渡り鳥)で、水辺のヨシ原や湿地に生息しています。
- ・水辺のヨシ原や湿地で5~8月にかけてヨシの茎や葉を組み合わせたお椀型の巣を作り繁殖し、茎から茎へと移動しながら、昆虫を捕らえます。
- ・ヨシを切り裂いて中にいる昆虫を捕食すると考えられていたことが名前の由来となっています。
- ・「ギョギョシ、ギョギョシ」の鳴き声から「行々子(ぎょうぎょうし)」とも呼ばれ、俳句の夏の季語となっています。

②自然体験・環境学習の場の創出

- ・ヨシ原や干潟の再生により、多様性のある水際の景観が形成され、川の自然とのふれあいに利用されています。



干潟での生物観察会

表紙写真 上段 豊川河口干潟(0.4k付近)、トウネン、アサリ、
下段 豊川放水路ヨシ原(4.8k付近)、オオヨシキリ、アシハラガニ

《問い合わせ先》 国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所 流域治水課
〒441-8149 豊橋市中野町字平西1-6
TEL(0532)48-8107 / FAX(0532)48-8100
<http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/>